

稲作情報



NO. 6

越後さんとう農業協同組合
電話番号(0258)41-2887

平成28年 6月10日

5月の好天により生育が早く、分けつも旺盛です！

田植え後1ヶ月を過ぎている場合は“直ちに”中干しを開始しよう！

生育状況(6月9日調査:抽出調査地点平均値)

5月の好天により、生育が進み、6月9日現在の生育は平年に比べ“茎数過剰”となっています。

- ・草丈：指標値比「並」
- ・茎数：指標値比「やや多い」
- ・葉数：指標値比「早い」
- ・葉色：指標値比「並」

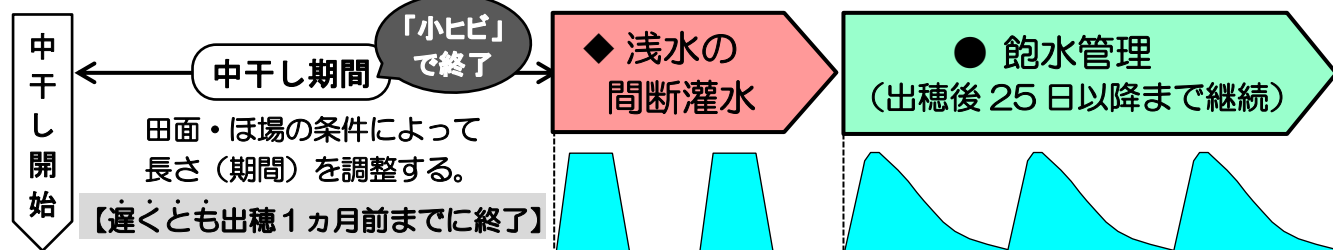
ほ場ごとに生育量(茎数)を確認し、目標茎数を確保したら、直ちに中干しを開始して下さい。
早生品種についても生育が進んでいます。いもち病に弱い品種で、箱施用剤を使用していない場合は、早期に予防防除を実施しましょう。

コシヒカリ	田植日	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉数(葉)	葉色(SPAD)
北部	5/6	34	315	7.8	39.8
中部	5/10	31	283	7.3	36.3
こしじ	5/13	29	239	7.0	38.0
平均	5/9	31	279	7.4	38.0
指標値	5/10	30	230	6.5	38.0

こしいばき	田植日	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉数(葉)	葉色(SPAD)
平均	5/4	30	317	7.8	44.5
指標値	5/5	29	240	7.0	42.0

1. 中干し以降の水管理

(1) 水管理の手順



(2) 水管理のイメージ

作業内容	水管理の概要	ポイント
① 入水	田面の高い部分が隠れる程度まで入水します。	深水にし過ぎない
② 湛水	根の機能低下防止のため、湛水期間は“1~2日程度”とします。	長期間湛水しない
③ 落水	入水完了から1~2日程度経過したら水尻をはらい落水し、田面が乾ききる(田面が白くなる)前に「①入水」を開始します。	乾かし過ぎない
◆ 浅水の間断灌水	①~③の水管理を繰り返し行い、徐々に「飽水管理」に移行します。	田面が乾き過ぎる前に「入水」しよう！

ポイント 田面が白く乾かないうちに入水！

飽水管理へ移行しよう

● 飽水管理

①'入水	水田内の溝や足跡から水がなくなる前に入水を開始し、田面の高い部分が隠れる程度まで入水します。	深水にし過ぎない
②'自然落水	水尻は止水、自然減水で田面に水がなくなり、溝や足跡の底の水がなくなる前に「①'入水」を開始します。	乾かし過ぎない

①'~②'の水管理を出穂後25日以降まで繰り返し行い、根の健全化と地耐力の維持に努めます。

ポイント 溝の水がなくなる前に入水！

2. 中間追肥

ケイ酸の施用は、高温条件下での登熟に効果があるとされます。ケイ酸質肥料の施用で“異常気象に強い米づくり”をしよう！

肥料区分	資材名	施肥量	使用時期
ケイ酸質肥料	スーパーシリカプレミアム	20~40 kg/10a	出穂前30~40日頃
	ウォーターシリカ	15 kg/10a	出穂前30日頃
加里肥料	けい酸加里プレミア34	20~40 kg/10a	出穂前40日頃
	塩化加里60%(粒状)	7~10 kg/10a	出穂前40日頃
燐酸肥料	マグコーブ	20 kg/10a	出穂前30~40日頃

ケイ酸の施用(中間追肥)は、①根張りの促進による倒伏軽減、②登熟向上による乳白粒の発生軽減と食味向上、③いもち病・こま葉枯病への抵抗性の向上、また、近年のような高温登熟条件下では、根の活性を高めることにより、養水分の吸収を活発にするとともに、④葉の蒸散が盛んになることで葉面温度を下げる効果も期待でき、高品質・良食味米の生産につながります。

3. カメムシ対策

全地域一斉による農道・畦畔、雑種地等の草刈り・除草の徹底により、カメムシの発生密度を低下させましょう！

第2弾

第1回 一斉草刈りウィーク
6月16日(木)~22日(水)実施！

重点対象雑草

メヒシバ、スズメノカタビラ、スズメノテッポウ、ナギナタガヤ

ポイント

結実させない！

斑点米カメムシの発生を防止するため、畦畔を含めた水田内外の除草を徹底しよう！

~~営農情報のお問い合わせは、お気軽に最寄りの営農センターへ~~

次回稲作情報：6月下旬「生育状況、穂肥、病害防除」(予定)

